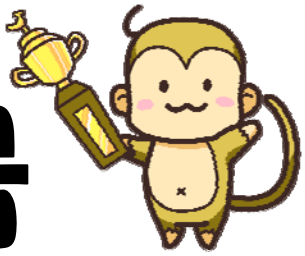
～創刊50号スペシャル～

としょかんNEWS 第50号



2010年 11月 29日
湘北短期大学 図書館

読書のすすめ －学生の皆さんへ－

図書館長 北川盈雄

ここ5～6年間は新聞やテレビのニュースの他に、この種のメディアにない特色ある記事を掲載している週刊誌を自ら選び読んでいます。ある週刊誌では「わが人生最高の10冊」が連載されており、私にはとても最高の10冊を挙げられそうにないなと思いながら、元大リーガーの選手も含めた各界各人の 10 冊の紹介記事に眼を通しています。ところで最近の風潮の一つに「若者の読書離れ」という言葉がありますが、この言葉を皆さんはどう思っていますか？よく読書をしていますか？えっ!…ムム…ム…？…。前述の「わが人生最高の 10 冊」の副題は英語で、No Books, No Life です。この副題には読書を通して人生を豊かなものにしていって欲しいというメッセージが込められていると思います。

さてこれから、ずいぶんと昔の学生時代のことも思い出しながら、私の読書経験について述べようと思います。皆さんは今まさに学生ですが、学生時代は勉強をしに学校へ通うことが日常でした。したがって、「読書」という語感から来る通常のイメージとは異なりますが、授業や研究で使った教科書や専門書の何冊かには今でも愛着があります。これらの書籍は学生時代の書き込みと共に書棚に残しています。人間若い頃に頑張ったことは、青春時代のアルバムのように強く思い出に残るものです。皆さんもぜひ学生時代の今を、義務感も伴い辛いこともあるかと思いますがぜひ頑張って勉強をし、その結果としての思い出あふれる書籍をぜひ自身の書棚に残していって欲しいと思っています。

次に趣味としての読書の話をしましょう。「好きこそものの上手なれ」という格言がありますが、皆さんはどのようなことが好きで、どのような趣味を持っていますか？「何かに熱中して時の経つのも忘れてしまったことがありますか？」との問いには、きっと思い当たる出来事が思い浮かぶことと思います。私事で恐縮ですが、私の趣味の一つは歴史小説の読書でした。今から振り返って見ると、私が高校に入学した昭和38年にNHK大河ドラマの放送が開始されたことが、その後の大河ドラマの歴史小説を毎年継続的に読むという動機につながったように思っています。若い頃は「大河ドラマ」という語感に感性的なロマンを感じたのではないかとも思います。

いつしか習慣にもなったのでしょう。外国留学の時期などを除き、平成 16 年放送の『新撰組！』の頃までこの種の読書を続けていました。記念すべき第一回大河ドラマが、意外にも井伊直弼を主人公にした船橋聖一作の『花の生涯』であったこと、大学生の時に今日の龍馬ブームのきっかけになった司馬遼太郎作北大路欣也、浅丘ルリ子主演の『竜馬がゆく』[1]の放送があったことなどを、今でも鮮明に憶えています。特に『竜馬がゆく』については、今年の放送が福山雅治主演の『龍馬伝』であったこともあり、昔日の感がします。長い間に読んだ多くの壮絶な人間ドラマである歴史作品を通して、物事を多角的に見るという視点が養われたようにも思います。ただその時々の実感として経過した時間の長さを意識したことはありません。好きなこととはそのようなものなのでしょう。

最後に「好きこそものの上手なれ」という格言の由来について触れておきます。元歌が口伝という歴史的な時間経過の中で変遷してゆく場合があり、有名な割にはその由来は必ずしも明確ではないようです。長い間にたまたま読んだことですが、由来は次の道歌[2]

器用さと 稽古と好きの その内で

好きこそものの 上手なりけれ

ではないかと言われています。道歌とは様々な人生訓を和歌などの形にして覚えやすくしたものです。皆さんはまだまだ若く、したがってやりたいことも沢山あろうかとも思います。が一度上の道歌の意味を熟考し、「好きなことを実際に長く続ける」ということに思いを馳せてみて下さい。時には辛い勉強や仕事も基本的には好きであること、あるいは好きになることが重要です。今の社会には情報が氾濫している側面もありますが、その場限りでない身についた知識はやはり読書から得られることが多いようです。図書館には多くの名著名作が所蔵されています。ぜひ読書を好きになり、また読書によって幅広い人間性を磨きながら、これからの Your Books, Your Life を築いていって欲しいと思います。

---

1) 司馬遼太郎著『竜馬がゆく』（文藝春秋, 1998）し/9/1-8

2) 斎藤亜加里著『道歌から知る美しい生き方』（河出書房新社, 2007）159/サ

図書館スタッフの一押し！　～スタッフ全員に聞いてみました～

さくらのオススメ

📖　たった１分で人生が変わる片づけの習慣

小松易著　中経出版　590/コ

「本を読むだけで、片づけが出来る？」そんな訳はないと疑いつつ読んでみました、『たった１分で人生が変わる片づけの習慣』。片付けが習慣化する考え方と片づけのしかたが読みやすく紹介されています。これを読んで片付けせずにはいられなくなり、毎日朝 15 分の片付けをするようになりました。片付けに苦手意識を持っているあなた、ぜひ手に取ってみてください。

イモ子のオススメ

～課題・レポートについてお悩みの方、必見！！～

課題やレポートのために本を探すとき、必要な資料を見つけることができない。そんな方にオススメの強いミカタが、“パスファインダー”。“パスファインダー”とは、テーマに関する資料や情報を探すための手順をまとめた情報探索ツールです。詳しくは、図書館 HP をご覧ください。

http://www.shohoku.ac.jp/library/pathfinder.html

わからないことがあれば、図書館ミカタのカウンターまでお越しください。お待ちしております！

ウオ子のオススメ

～図書館の映像資料は、映画だけではない！～

空き時間に DVD を見に来られる学生さんの姿をよく見かけますが、図書館の DVD は映画だけではありません。私のオススメは、ドキュメンタリー作品！自然に興味がある方なら、話題のネイチャー・ドキュメンタリー「皇帝ペンギン」「WATARIDORI」「オーシャンズ」はご存知かもしれませんが、NHK「地球大進化」「プラネット・アース」シリーズも必見です。歴史好きの方には、「未来への遺産」「失われた文明インカ・マヤ」「エジプト発掘」など、歴史・紀行ドキュメンタリーも充実しています。

さろZのオススメ

～ひとりの世界に浸りたいあなたへ～

図書館で借りられるのは本だけではありません。オープンスペースではパソコン・デジカメなど多くの機材を貸出しています。話題の iPad も借りられますよ。

私がオススメしたいのは 3 階1人用キャレルデスク。ワイワイ勉強するのもいいけど、集中してレポートを仕上げたい！！という人は PC を借りて、ここで作業してみてはいかがでしょうか(貸出 PC でも印刷ができます)。ただし、日差しが当たる席はポカポカして眠くなるので、要注意です(笑)

アン子のオススメ

～アンソロジーはいかが (^_-)-☆～

「ちょっと何か読みたいな」「サラッと読める本がないかな」というときにおすすめしたいのがアンソロジー。作品集や短編集とも呼ばれます。本を読むのが苦手というヒトもまずは手にとってみて！お気に入りの作品や作家がきっと見つかるはず。「LOVERS」「FRIENDS」「きみが見つける物語」「ピュアフル・アンソロジー」(いずれも「ん/1」)「ぼくの歌が君に届きますように」「Re-born：はじまりの一歩」(いずれも「913.6/ん」)

背ラベルの＜ん＞はアンソロジーの目印です。

～編集後記～

2005 年に創刊した「としょかん NEWS」が今号で 50 号を迎えました。入職３年目にして生意気にも「図書館の広報誌を毎月出します！」と宣言した日から、あっという間の 5 年間。2008 年には、図書館キャラクター「さるーち」も登場して、誌面をキュートに飾っています。個人的に気に入っている記事は「レポート作成の資料探しのコツ」と「今月のとしょかん Close Up!」のコラム。前者はパスファインダーとしてホームページで公開中。後者は現在もシリーズ続行中です。新キャラクター「みどりさん(※実在の人物とは関連ありません)」の今後の活躍にも期待してくださいね。

(編集担当 KT)